

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人コスモス コスモス放課後等デイサービスでん・でん		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 22日		～ 令和7年 10月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 16日		～ 令和7年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内に子ども・障害・高齢分野があり、ライフステージを繋ぐ支援ができる。(放課後等デイサービスの提供すべき支援で示す子どもの支援に必要な関わりが、広い視点で考え対応することができる)ご家族に対して、子どもの将来の「生活像」を具体的に示すことができる。	定例で分野を越えた事業所の会議や研修を開催し、情報共有や学びの場を設けている。ご家族に対して、福祉サービスの事業所見学などを企画している。	定期的に、子ども、家族、職員が交流する機会を設定する。ご家族が安心して子どもの将来像を描けるように、関係事業所とも連携し、情報提供を行っていく。事業所見学を企画する。制度について学習し、理解を深めていく。
2	同じ建物内に相談支援、作業所、グループホームの事業所があり、緊急時など応援体制が整っている。支援についても協力関係を築いており、助言をもらっている。災害時の協力体制も構築している。	月1回共有の会議を開催。日常的に、協力をし合う関係性を築いている。朝礼で各事業所の予定や特記事項などを確認している。	安全計画やBCPに準じて共に訓練を行う。安全安心が守られる取り組みを年間計画に基づき取り組んでいる。1事業所だけでは解決できない課題にも一緒に取り組んでいく。職員交流を深める(交換実習など)。
3	法人内にコスモス研究所(職員への専門研修と障害児者支援の研究活動をすすめる)があり、事業所内には公認心理士も配置しており、発達を学ぶ環境がある。(障がいの特性や発達を学び、子ども1人ひとりを理解する力をつけ支援に関わる)	毎月、公認心理士とともにケース検討会を行っている。職員の経験年数に合わせ、発達の基本を学んだり、事例を用いて学び合える研修がある。個人の学びだけでなく、職員間の交流を深める場にもなっている。	個人の学びを職員全体に伝達研修として報告してもらい、実践に活かしたり意欲向上に繋げている。職員同士の対話を重視し、子どもを中心に据えて支援を考えていくことを大切にしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所として、子どもたちやご家族のニーズに応えるために努めているが、事業所の運営状況(職員配置、環境等)がご家族等に十分に伝わっていない。	ご家族に対して、送迎時の対話や連絡帳、電話、お便り、HPなどで情報を伝える機会はあるが、運営状況の事項を詳しく伝えることができていない。	見学会、交流会など気軽集まってもらえる機会を設定していく。実際に事業所に足を運んでもらい、肌で感じてもらう。その中で、家族が感じることや意見を事業所と共有し、よりよい事業所運営につなげていく。
2	支援内容や訓練の実施状況、マニュアル、安全計画などの内容について、十分にご家族に伝わっていない。	上記同様、報告をする機会が少なく、様々な情報に紛れて、説明事項として後回しになっていたのではないかと。	日頃から保護者の方に具体的な内容が伝わるよう、報告をする頻度や発信方法を工夫していく。子どもが変化・成長していく姿を肯定的に捉え、ご家族とも共有を図っていく。また子どもや保護者のニーズをその都度確認し、支援に反映されているのかを検証していく。
3	地域活動や他機関との連携、運動の取り組みが消極的である。	事業所内で支援が完結してしまっている傾向がある。社会資源とのつながりを活かすという意識が職員にも弱い。	地域の社会資源を積極的に活用していく。子どもたちと一緒に地域の活動や行事に参加する。「地域の中でともに育つ」という視点を大切にする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 社会福祉法人コスモス コスモス放課後等デイサービスでん・でん

公表日 令和7年10月28日

利用児童数 24

回収数 15

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	1	0	1	わからない。 利用者が多い日は充分ではないかも。	保護者の方が来所できる機会を設け実際に見てもらえるように対応します。(交流会やイベント等) 子どもたちが安心して過ごせるようなスペースの確保に努めます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11	2	0	1	わからない。 利用者が多い日は充分ではないかも。	契約内容の変更時などでお知らせしていますが、機会が少ないと思われます。利用児の人数や職員数がわかる内容をおたより等で工夫していきます。また、子どもたちが安心・安全に過ごせるような職員体制の確保に努めます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	0	0	0		事業所に来ていただける機会の設定や、事業所の環境が分かるような情報の発信をしていきます。(見学会やおたより、HP等)
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	0	0	1	わからない。	③同様。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	2	0	0		支援で大切にしていることなど、都度お伝えする機会をつくっていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	1	0	0		⑤同様。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	15	0	0	0		引き続き努めていきます。ご家族との情報共有に努めていきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	3	0	0		必要に応じ支援内容について本人、保護者の方と確認し、具体的な内容を提案していきます。ご家庭での様子についても積極的に把握していくようにします。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	1	0	1	わからない。	計画に沿って行っている支援について連絡ノートにも記載してお伝えすることも検討します。支援や子どもさんの姿について積極的に伝えるようにしていきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	1	0	0	外の活動などの活動を増やしてほしい。	安全に配慮しながら、外出のプログラムを増やせるように努めていきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	6	1	5	1	わからない。 頻度は少ないと思いますが、ただ、子どもたちも親ももっと交流を希望しているかどうかだと思います。	事業所の取り組みとして法人内外の行事に参加することで、子ども同士の交流ができる機会とならないか、引き続き検討していきます。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	0	1	0		契約時だけでなく、必要に応じて丁寧な説明を心がけていきます。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13	2	0	0		支援内容の説明が不十分であったとのことご意見に対し改めて対応していきます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	3	6	1	わからない。 保護者交流会など増やしてほしい。懇親会が定期的であると安心。	参加しやすい日時で、共に学び合える機会ができるよう検討していきます。直接参加が難しい方への参加の在り方も考えていきたいと思っています。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	10	5	0	0		努めていきます。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	3	2	0		面談や助言等の支援の頻度や対応については、まだまだ不十分ではあります。時間がかかっても、子どもに寄り添い、ご家族と一緒に考えていくことを大切にしていきたいです。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12	3	0	0		子育ての悩み、楽しみを共感し合い、よりよい支援が出来るよう努めていきます。子どもの成長と一緒に共有していきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	4	4	1	わからない。 頻度は少ないが、きょうだい同士はないと思う。 積極的に取り入れてほしい。	保護者の方が無理なく参加できる機会や交流を望まれる方については、随時見学ができることの発信をしていきます。日程の調整がしやすいよう年間計画を立てお知らせすることも考えていきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	1	0	0	積極的に取り入れてほしい。	1人で悩むことのないよう、相談の場や体制があることを具体的、明確にお伝えしていきます。また発信しづらい方への気づきも高め対応できるよう努めていきます。関連事業所とも連携して、相談に応じていきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	1	0	0		個別の状況に合った対応を心がけていきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	13	1	0	0	「個人」ではなく、「利用者全員まとめて」が多いため個別の情報がもう少しあればよいと思います。	子ども1人ひとりの様子が分かるように工夫をしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	0	0	1	わからない。	引き続き取り扱いに留意していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	2	2	1	わからない。マニュアルはあると思うが、周知されているのか？までは分からない。	マニュアルの内容についてや訓練の報告など保護者の方に周知できるくみを検討します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	1	0	2	わからない。	非常災害についての対応の説明や相談を個別で定期的に行っていきます。訓練後の報告についてもわかりやすくお伝えしていきます。 個別避難シートの作成依頼に対応していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	1	0	1	来所しないとわからないことが多い。	安全計画の説明が不十分だと認識しました。改めてお伝えしていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14	1	0	0		事故等の対応について職員間で再度確認し、事故のないよう努めるとともに、安心して利用してもらえるよう対応について説明をしていきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	15	0	0	0		「明日も行きたい でん・でんに」と思ってもらえるよう努めていきます。子どものニーズを引き出します。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	13	2	0	0		の同様。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	1	0	0	どちらかというと満足している。 支援は満足していて不満はないが、どんな風にごしたかなどもう少し詳しくわかるとうれしい。アプリなどで共有できるとすごくありがたい。	安心して利用してもらえるよう、またとにも育ち合える関係を継続していきます。子どもの様子がより詳しく分かるような工夫をしていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人コスモス コスモス放課後等デイサービスでん・でん		公表日		令和7年 10月 28日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	7	こどもの状況によっては柔軟に取り組み内容や活動の場所を変更したり、職員数に応じた活動を行うよう工夫している。	障害特性に応じて、子どもに対して安全な支援が行えるよう職員数の確保に努めているが、利用者の状況によっては人手不足と感じることがある。男性職員が不足している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	室内はバリアフリーになっている。こどもたちにもわかりやすく伝わるように絵カードや写真を使用するように工夫している。時計はアナログとデジタルを併用している。	個別や少人数で過ごせるよう空間の確保が必要。仕切りなどの工夫を検討。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	掃除や危険箇所の点検は毎日行い、清潔、安全を保てるようにしている。こまめに消毒を行っている。夏前には防虫対策をしている。	子どもたちの活動に必ずしも合っているとは言えない時がある。特に「大きな音や声」が苦手な子どもが安心して過ごせる空間の確保が課題。職員間で解決方法を継続的に検討している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	子どもの心身の状態や活動内容に応じて柔軟に対応している。	スペースが限られているので、一度に、多くの子どもに対して配慮することがむずかしい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	会議やミーティングなどを通じて行っている。文書にて共有を図る。	多様な働き方の職員が参画しやすい方法を継続して検討していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	自己点検アンケートの結果や連絡帳のやり取り、送迎時での保護者等との対話を共有し業務改善に繋げている。	保護者の些細な意見にも傾聴していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	会議やミーティングなどを通じて行っている。いろいろな意見を取り入れて、業務改善につなげている。ルールの見直しなど。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8	2025年度内に第三者評価事業を受審完了予定。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	法人内、外の研修に参加している。外部機関によるオンライン研修の受講もしている。参加できない場合は伝達研修を行い職員全体で学べる機会を設けている。法人としてキャリアに応じた研修計画がある。	短時間契約職員や派遣職員に対する研修がまだ十分ではない。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	公表されている。法人のホームページでも公表中している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	利用に向けて、家族に対してニーズの聞き取りを丁寧に行っている。面談や見学を経て、事業所内ケース会議を開催、職員間で確認し計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	ケースや日々のミーティングを通じて職員1人ひとりの気づきを共有し、計画に反映できるようにしている。公認心理士による専門的な視点からも、支援のあり方の検討、見直しを行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	会議やミーティングなどで共有を図っている。毎日、支援の記録をしている。	短時間契約職員や派遣職員に対するの丁寧な共有が十分ではない。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	フェイスシート、医療シート、アセスメントシートを活用することを確認している。また、行動観察や家族からの連絡帳の情報なども踏まえてアセスメントを行っている。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	ねらい、支援内容の具体化を図り職員が必要な支援を行えるよう設定し努めている。支援の内容については適宜、職員間で論議をしている。	支援の具体化に悩むケースがある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	現場会議やミーティングなどで意見を出し合っている。年間計画を立てている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	こどもの状況を把握し柔軟に対応できるようにしている。季節に応じたプログラムを計画実施している。	外出のプログラムの増やしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別、集団の視点を持ち計画を作成し支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	前日、また当日の出動時には職員間で打ち合わせを行っている。日課の組み立てを検討、確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	その日の振り返りに参加できない職員に対して情報共有ができるよう、共有ノートを活用し引継ぎを行っている。	送迎や退勤時間の違いで、毎日、全員で振り返りを行うことはできていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	すべての職員が記録できるような書式を用意し、日々の記録をできるようにしている。日誌の活用。モニタリング等につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	6か月以内にモニタリングを実施し、個別支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7	1	個々のケースに合わせた内容で支援している。	子どもの障害特性に配慮をして、柔軟に活動を検討していく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	子ども1人ひとりの希望に沿って活動できるようにしている。集団で取り組む内容も自分で選択し参加できるようにしている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	基本的には児童発達支援管理責任者が参加している。他職員からの意見も把握した上で参加している。	児童指導員の参加も考えるが、体制的に厳しくなかなか参加ができない状況がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	相談支援に調整をしてもらいながら、連携できる機会を整えている。隣接の法人内事業所（生活介護、就労継続B型、計画相談、GH）とも日常的に連携を図っている。	地域の保健、医療、民生委員などとの連携は行えていないことが多い。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	さかい障がい児放課後連絡会を通じ、情報共有を行っている。地域の学校とは直接連携をとるか、保護者を通じて行っている。学校からのお知らせやホームページから情報を得ている。適宜、教育委員会からの情報も把握している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3	必要に応じて、情報共有を図るように努めている。	あい・ふあいるを積極的に活用していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	0	相談支援を介し担当者会議に参加し情報共有を図っている。ケースに応じて個別対応をすることがある。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	4	センター主催の研修等には参加している。	SVや助言を受けるほどの連携はできていない。連携を図っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	同法人内の放課後等デイサービスとの交流はある。	交流を図る機会が少ない。長期休暇の時など地域の様々な活動に積極的に参加いくことが課題となっている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	8		ほとんど参加できていない。今後は参加し地域との連携を図っていく。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎時や連絡帳などで情報共有を図っている。必要に応じて電話や訪問し直接家族と話し合うようにしている。		

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4	夏休みに、家族も参加できる行事（運動会等）を企画している。また、家族向けに、障害福祉事業所の見学会を企画している。	定期的な開催には至っていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1	契約時に行っている。	内容に変更が生じた時にも丁寧な説明をしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	家族との面談や本人の様子からニーズを汲み取る。モニタリングや日々の状況を職員間で確認し作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	支援内容、変更した点、留意事項を説明し同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	連絡帳やメール、電話、送迎時などさまざまな場面で家族からの相談がある。その都度、丁寧に対応をしている。明確な助言はできなくても、事業所として家族と一緒に考えていくことを大切にしている。	発信しづらい家族の状況にも細やかに気づけるよう努めていく。また、対応に時間がかかる場合には、その旨を説明する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	7	1	夏休みに、家族も参加できる行事（運動会等）を企画している。また、家族向けに、障害福祉事業所の見学会を企画している。	定期的な開催には至っておらず、回数も少ない。今後、就労等や家族状況によって参加できない場合の対応も同時に考えていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	迅速に対応するよう努めている。途中経過も伝えるように努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	0	おたよりを毎月発行、またHPや法人内機関紙で活動の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	契約時に個人情報の取り扱いについての説明を行い同意を得ている。また、個人情報についての研修を行い適切に取り扱い出来るよう努めている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	個別の対応が必要な場合は、状況に合った対応を心がけている。必要なツールについても導入の検討をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	ボランティアの受け入れを行っている。	事業所独自の行事を行っていない。地域に開かれた事業所となるよう努めていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	マニュアルを作成、訓練を行っている。必要に応じて、見直しや追加を行っている。	周知の徹底ができていないと感じる。その都度詳細な報告を行うようにしていく。特に、家族等に対する周知は不十分である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	BCPの策定、訓練を行っている。	子ども参加の訓練も必要。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	0	フェイスシートや医療・服薬シートを年1回保護者に提出してもらっており、情報を把握し対応している。必要に応じて情報の更新を行う。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	指示書については必要に応じて保護者に提出してもらい対応している。昼食やおやつに配慮をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	作成し、安全管理を行い支援している。施設設備についての安全性を点検している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1		周知が不十分な点を改善していく必要がある。おたよりなどを活用していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	報告書をもとに、ミーティングや会議などで共有し、教訓化を図っている。事故防止に努めている。	

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	虐待防止委員会を開催し適切な対応を行っている。また施設内・外の研修にも積極的に参加している。障害特性や発達についても学習をしている。公認心理士の配置。職員の気持ちのコントロールの方法についても学習。	短時間職員や派遣職員との十分な情報共有が課題。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	保護者に説明を行い同意を得ている。計画書にも記載し、内容の確認、見直しを定期的に行っている。必要に応じて記録をしている。	短時間職員や派遣職員への十分な周知と理解促進が課題。